



〒975-0031  
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地  
TEL:(0244)26-1315  
FAX(0244)26-1318  
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト  
**読書活動支援者育成事業相双地区研修会**

- 日 時：令和6年7月25日（木）10:00～15:40
- 会 場：福島県環境創造センター環境放射線センター
- 内 容：①「震災の記憶と教訓の継承」、②「ミニ・ビブリオバトル～真夏の相双地区大会～」、③「絵本よみかせセラピー®」
- 講 師：①原発震災を語り継ぐ会 震災語り部 高村 美晴 氏  
③絵本よみかせセラピスト® 山田 昭彦 氏
- 参 加 者：20名（教員2名 学校司書14名 図書館司書2名 読み聞かせ団体1名 一般1名）



**震災の記憶と教訓の継承**

今年度は、「原発震災を語り継ぐ会」の高村美晴さんから、震災時における避難生活についてのお話を聞きました。

高村さんは、震災当時は南相馬市内の老人介護施設にお勤めで、様々な経験をされながら避難生活を送られました。とにかく情報が少なかったことが御自身やご家族の判断をする時に一番大変だったという事です。

当時の相双地区の方々には100人居れば100通りの悩みや決断があったのでしょうか。地元に残って生活をした方もいました。見えない放射線から避難生活を選ばれた方もいました。記憶の風化が叫ばれていますが、相双地区の方々にとっては未だ薄れることのない記憶でした。日々の生活の中では忘れてしまっていたかと思いましたが、語り部からの話をきくと鮮やかに思い出してしまうのが相双地区に住む方々です。

高村さんもおっしゃっていましたが、震災語り部の数は急速に減っているそうです。高齢化や、もう語れないという事があるそうです。福島県として記憶を風化させないためには、若い世代に継承してもらう必要があるとのことでした。

当時を思い出すと、辛い気持ちになってしまう方がたくさんいることも事実です。デリケートな問題ですが、記憶と教訓を未来につないでいくためには何ができるのか、相双地区ならではの手法を、考えなければならぬと感じさせてくれる講話でした。



**ミニ・ビブリオバトル**

今回のバトルは南相馬市学校司書の鎌田小百合さんと須藤公美子さん、相双教育事務所から滝本次長と角田主任社会教育主事の4名でした。9月7日に中学生・高校生の予選会が開催されるので、そのプレ大会として2年ぶりに開催しました。今回は時間の関係で、プレゼンの時間が3分間のミニ・ビブリオバトルの形式で行いました。

【ミニ・ビブリオバトル真夏の相双地区大会(発表順)】

- |   |          |       |
|---|----------|-------|
| 1 『殉死』 司馬 遼太郎 (文春文庫)                        | 相双教育事務所  | 角田健太郎 |
| 2 『何度でも行きたい世界のトイレ』 ロンリー・プラネット (編集) (河出書房新社) | 南相馬市学校司書 | 鎌田小百合 |
| 3 『あなたのための短歌集』 木下 龍也 (ナナロク社)                | 南相馬市学校司書 | 須藤公美子 |
| 4 『はじめてのゾンビ生活』 不破 有紀 (株式会社 KADOKAWA)        | 相双教育事務所  | 滝本 裕彦 |

講評 南相馬市立図書館 主任司書 佐藤 真紀 氏 (令和4年度プチビブリオバトル体験会チャンプ)



## ミニ・ビブリオバトルの様子

今回のバトルは4人も初めてのビブリオバトルの実戦でしたが、それぞれの選書やプレゼンから、その人のことが良く分かる発表でした。「人を通して本を知る」「本を通して人を知る」という事が実感できました。また、発表の後の質問タイムがビブリオバトルをする上でとても大切だという事が分かりました。質問によって、紹介された本の別な側面も伝えることができ、投票するときの判断材料になっていました。「発表が上手だから」「友だちだから」という基準ではなく、『一番読みたくなった本』に投票をするという事も大切なことですが、今回のバトルを通して経験できました。ぜひ、それぞれの現場でもビブリオバトルを広めていってほしいと思いました。

### 【ミニ・ビブリオバトル結果】

チャンプ本……須藤 公美子 さん紹介の『あなたのための短歌集』  
準チャンプ本…鎌田 小百合 さん紹介の『何度でも行きたい世界のトイレ』



## 絵本よみきかせセラピー®

絵本よみきかせセラピー®とは、絵本を通して自分の心と向き合い、新たな可能性を生みだすことを目指していくセラピーです。今回は、『おこだまませんように（作：くすのきしげのり、絵：石井 聖岳）』と『からすたろう（文・絵：八島 太郎）』の二冊を通して、参加者は自分の心の深い部分に何かを感じることができました。この絵本よみきかせセラピー®は、講師の山田さんから絵本を読んでもらった後、絵本に対する問いかけや投げかけがあります。個人で考えを巡らせた後、3名一組のグループでディスカッションを行い、改めて自分の考えと向き合うという流れとなっています。

当日は様々な職種や年齢の方が参加して下さったので、自分とは違う考えを交流することができ、作品の世界を深く味わうこともできていました。正解のない問いに真剣に取り組む経験は、何事にも代えがたい時間を過ごすことができました。

講師の山田さんは、絵本よみきかせセラピー® だけではなく、読み聞かせの手法等も教えてくださいました。手法を学んだ6年生が1年生に読み聞かせをしてあげるといった実践も他地区の学校で行って、大変好評だったそうです。今回の研修を通して相双地区とのつながりもできましたので、学校単位で興味があれば相双教育事務所まで連絡していただければ取り継いでいきますので、ご検討ください。

## 研修の感想

### 震災の記憶と教訓の継承について

- 高村先生のお話を聞いたり、他の参加者と当時の体験を話したりすることで忘れかけていた震災の記憶を思い出し、考えることができました。
- 震災のお話は、自身の経験とも重なって身につまされました。語っていくことの重要性を感じました。ぜひ、子どもたちへも読み聞かせの時間を利用して、読み聞かせ等を行ってみたいと思いました。
- 研修とても勉強になりました。震災語り部で若い方がいたら、そちらの話も聞いてみたいです。

### ミニ・ビブリオバトルについて

- 和やかな雰囲気の中、研修に参加することができました。ビブリオバトルは、やはり面白いですね。
- ビブリオバトルのバトルの皆様、発表のご準備、お疲れさまでした。どんな本が登場するのかなと、ワクワクしました。本に対する熱い想いに胸も打たれました。新しい本を知るきっかけになりました。小学校の児童には、新しい取り組みなので時間もかかり、少し難しそうですが、中学・高校生がやっているよ！と宣伝して読書の引き出しをいっぱいにしていこうと思います。今日は楽しい時間と学びの機会をありがとうございました。
- ミニ・ビブリオバトルは楽しく観戦させていただきました。子どもたちにも楽しさを伝えていきたいです。



### 絵本よみきかせセラピー®について

- セラピーは小5、6年生くらいにやらせてみると良いと思いました。出前講座に来ていただけたらうれしいです。
- 絵本よみきかせセラピーは初めての体験でした。今まで読んでいた本でも、「～はなぜそうだと思いますか？」などと分からなかったり、深く考え読み込むことがなかったと考えさせられたりしました。また、人によって本の受けとり方がけこう違うという事がよくわかりました。楽しかったです。
- 絵本セラピーでは、普段考えたことのない物語の背景を考えることで、2回物語を楽しめたように感じました。

